

新型コロナウイルスワクチン接種後の肉眼的血尿

川口市立医療センター

腎臓内科

よこて しんや
横手 伸也



腎臓疾患の一つに、20～30年かけて末期腎不全となる可能性があるIgA腎症^{じんしょう}があります。これは国の難病に指定されている疾患です。以前は人工透析になる原因疾患の第1位でしたが、最新の医療では発症から3年以内に治療することで、約9割の患者が寛解^{かんかい}（病気の症状がほぼ消失した状態）を期待できるようになりました。このIgA腎症の患者が新型コロナウイルスワクチンを接種すると、肉眼的血尿（肉眼で確認できる赤黒～褐色の尿）が出る症例が、日本腎臓学会から報告されています。

新型コロナウイルスワクチン接種後の肉眼的血尿の特徴として、①ワクチン接種後2日以内に起こる ②2回目以降のワクチン接種後に多い ③自然に改善する ④比較的若年者に多い ⑤女性に多いなどが分かっています。

IgA腎症と診断されていないかたでも、新型コロナウイルスワクチン接種後、肉眼的血尿が比較的早い段階（2日以内）で見られた場合は、IgA腎症が隠れている場合があります。前述のとおり、IgA腎症は、進行すると腎移植や人工透析のリスクが高まりますが、早期発見と適切な治療により改善が期待できますので、新型コロナウイルスワクチン接種後に肉眼的血尿が見られた場合は、腎臓内科の受診をご検討ください。

